

上智大学講演要旨

テーマ：協同学習を取り入れた英語授業改善

講師：江利川 春雄（和歌山大学教育学部）

要 旨：

協同学習（協働学習；cooperative / collaborative learning）とは、「少人数集団で自分と仲間の学びを最大限に高め合い、全員の学力と人間関係力を育て合う教育の原理と方法」です（江利川春雄編著『協同学習を取り入れた英語授業のすすめ』6頁）。

教師による一方的な解説中心の授業ではなく、単なるグループ活動でもなく、もっと授業を活性化させ、できる子も苦手な子も全員の学びを深めるにはどうすればよいか。そうした試行錯誤の結晶が協同学習であり、日本でもめざましい成果を上げつつあります。

1. いじめ・問題行動・不登校が減少：学び合いで人間関係が良くなり、教室が「自分の居場所」になります。
2. 全員の学力が向上：目先の点数だけでなく、学びの楽しさを知ることで生涯にわたって学びを楽しむ自律学習者が育ちます。
3. 教師のストレスが減少：生徒・同僚との人間関係が向上し、学校が楽しくなります。

講演では、協同学習をよく知らない人にも理解いただけるよう、各地の学校での実践例を紹介しながら、次のようなお話をします。

- ① 協同学習の必要性：子どもたちの学びをめぐる環境の変化に伴った協同的で双方向的な質の高い学びの必要性。
- ② 協同学習の基本原則：(1) 仲間との建設的な支え合い、(2) 「背伸びとジャンプ」の高い課題設定、(3) 役割分担による個人責任の明確化、(4) 個人・グループによる振り返り、(5) 学習集団の作り方、(6) 教師の役割、(7) 教師の同僚性など。
- ③ 協同学習による英語授業大改造ビフォー・アフター：生徒の学びの変容、成績の向上、問題行動の減少など。
- ④ 授業に協同学習を取り入れるための留意点：目標・課題・評価基準の明確化、一斉授業と協同学習の組み合わせ方、高めの課題設定の必要性など。
- ⑤ 協同学習から「学びの共同体」へ：子ども・教師・保護者地域住民が共に成長する新たな学校文化の構築へ。

【講師紹介】

江利川春雄（えりかわ・はるお）

和歌山大学教育学部教授。教育学博士。専攻は英語教育学、英語教育史。

1956年、埼玉県生まれ。神戸大学大学院教育学研究科修了。現在、神戸英語教育学会会長、日本英語教育史学会副会長、和歌山英語教育研究会会長など。協同学習を核とした英語授業改善のために各地の学校や研究会などを訪問している。

<最近の著書>

『英語教育、迫り来る破綻』（ひつじ書房、2013）共著

『協同学習を取り入れた英語授業のすすめ』（大修館書店、2012）編著

『学習英文法を見直したい』（研究社、2012）共著

『英語教育のフロンティア：充実した実践を目指して』（保育出版、2012）共著

『成長する英語教師をめざして』（ひつじ書房、2011）共著

『受験英語と日本人』（研究社、2011）単著

『英語教育のポリティクス：競争から協同へ』（三友社出版、2009）単著

『危機に立つ日本の英語教育』（慶應義塾大学出版会、2009）共著

『日本人は英語をどう学んできたか』（研究社、2008）単著

『近代日本の英語科教育史』（東信堂、2006*日本英学史学会豊田賞受賞）など。